

## 2) やんばる環境学習

仲松由美子<sup>1</sup>・国広潮里<sup>1</sup>

キーワード：学校教育 総合的な学習 通年学習 出前授業 地域連携 普及啓発

### 1. はじめに

学校教育と連携した普及啓発事業の確立は、そこに通う児童生徒の環境保全意識の向上を図る上で重要な要素の一つである。当財団では、沖縄県内の児童生徒の地域環境への興味関心や環境保全への意識向上を図るため、平成26年度よりやんばる環境学習を展開している。

本事業では、県内北部地域の小学校や教育委員会等と連携し年に3回以上の学習を継続する「通年学習プログラム」および1～2回完結型の「短期学習プログラム（出前授業）」を、県内各地の学校を対象に展開した。

また、地域の動植物や自然環境等について調査し、その成果を活かしたプログラムを検討した。

### 2. 実施結果

#### 1) 通年学習プログラム

名護市内3校、本部町内2校において通年学習を展開した。主に総合的な学習の時間を利用して行い、適宜、理科・国語などの単元にも組み込んだ。地域の動植物の生態や自然環境と併せ、地域の農産業について、当財団職員による解説や野外活動等を通じた学習を行った。

#### (1) ウミガメから学ぶ環境学習

##### ア) 名護市立小中一貫教育校 緑風学園

平成26年度に連携を開始した緑風学園では、複数学年にわたる学習体制が確立している。実施場所は緑風学園、美ら島自然学校、学区内の河川や海岸等であった。学習は、昨年度に引き続き3年生の「ウミガメ」、4年生「川の生き物と環境」、5年生「地域の食」と地域の環境や文化を体系的に学ぶことを意識した学習展開を行った。また、コロナ禍前まで実施していた3年生のウミガメ学習合同発表会を今年度から再開した(写真-1)。海洋博公園内で学習を実施してきた本部町内の2校(上本部学園、瀬底小学校)と合同で行うことで、人に伝える手段を考え、人前で発表する機会に触れることができた。例年通り3月には、各学年ともに口頭やポスター等での成果発表を行い、一部は海洋博公園(ウミガメ館内)および美ら自然学校において展示を予定している。



写真-1 ウミガメから学ぶ環境学習合同発表会の様子

##### イ) 名護市立名護小学校、稲田小学校

名護小学校では、3年生を対象に「イノリの生き物」や「ウミガメ」をテーマに学習を実施した。財団職員を講師に危険生物を含めたイノリに生息する生きものについて事前学習した後、本部町備瀬区でのイノリ観察会を実施した。ウミガメの学習では、「生態や形態」「ウミガメをとりまく環境」「調査研究」について講義した他、ウミガメ幼体を用いた生体観察を行った(全5回)。稲田小学校では、ウミガメの生態や環境問題について学習を行った(全3回)。

##### ウ) 本部町立上本部学園

海洋博公園を活用した複数学年にわたる通年学習として、上本部学園内および海洋博公園内各施設で実施した。学習構成は、既に海獣課と連携して実施している3年生の「ウミガメから学ぶ環境学習」を基本とし、海から川、人の暮らしを連動させることを意識づけした。各学年のテーマは、4年「地域の農業と自然」、5年「自然と環境 地域の生き物(動物・植物)」としている。4年生では昨年度に引き続き海洋博公園内施設(おきなわ郷土村)を活用した「もとぶ香ネギ」の植え付け体験を実施した。各あたりぐわ(家庭菜園)のネギの長さ計測、分けつ数のチェック以外に、新たに照度計を用いた照度測定を追加した。植物の成長に必要な光について数値化することで、各あたりぐわのネギの比較を行った(写真-2)。

<sup>1</sup> 普及開発課



写真-2 地域の農産業と自然：海洋博園内（4年生）

## エ）本部町立瀬底小学校

小学5-6年生を対象に、瀬底小学校内においてサンゴの基礎と野外観察方法について事前学習を行った後、本部町健壁の埋め立て漁礁を活用した「サンゴ観察会」を実施した。干潮時には歩いて行くことが可能で、ブロックに付着したサンゴ類を継続的に観察することができる。今年度は観察シートを作成し、児童各々で調査するサンゴ群体を3群体決め、それぞれ水温・日当たり・観察群体の状態・周りの様子（サンゴ以外の生き物があるかどうかなど）を写真と併せて記録、折尺による計測を月に一度実施した。4,6,7月に実施したが、同じ群体を見つけることが難しく、さらに9月は潮の引きが悪く、観察を断念した。自然を相手にする学習プログラムであり、今後の継続については、さらに調整が必要と感じられた。

## 2）短期学習プログラム（出前授業）

地域の環境や動植物および文化に対する興味関心を引き出すことを目的に、1～2回完結型の短期学習プログラム（出前授業）を、県内の小中学校および高等学校を対象に実施した。実施にあたっては、総合的学習の時間の他、国語や生活の単元授業および理科クラブと関連づけた内容で構成した。令和5年度は県内18校から依頼を受け実施した。学習テーマは「ウミガメ」「有孔虫」「サンゴ」「サメ」等で、依頼内容に応じて総合研究所職員を講師として派遣した（写真-3）。



写真-3 出前授業：久辺小学校理科クラブ

## 3）地域の動植物等の調査について

うるま市の沖縄アミークスインターナショナル敷地内に生息するオキナワイボイモリの生態調査を、同校の生徒とともに実施した。また、美ら島自然学校周辺で観察できる野鳥を月毎に調査し、月平均25種類の野鳥を観察できた。

## 3. 成果の公表

本事業は、学習プログラムの開発を兼ねており、各学校等で行った事業の効果や手法の検討を進めている。学校や教育委員会への聞き取りを行いながら引き続き、地域と財団の特色を生かした学習プログラムや教材の開発、自然学校での解説プログラムの解説に繋げた（写真-4）。



写真-4 地域の動植物調査：自然学校周辺の野鳥

## 4. 外部評価委員会コメント

よくやっていると思うし、すばらしい活動だと思う。特にイボイモリの調査や野鳥の調査結果が気になる。何気ない自然の記載を続けていく中で、面白いテーマを見つける姿勢を様々な利用者に伝えて欲しい。また、できれば、ヤンバルで古い出来事や伝承などを採取する仕事をして欲しい。（亀崎顧問：岡山理科大学教授）